

2025年 1月 30日

武蔵野美術大学 学長 殿

海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

記

氏名	金真希	所属	油絵研究室
		職位	助教

研究課題	南ヨーロッパの美術、半島国の美術の特徴について
研究先機関	ミロ美術館、サグラダファミリア（スペイン） アンブロジアーナ図書館、ヴェネツィアビエンナーレ（イタリア） など
主な滞在地 （国・都市名）	スペイン・バルセロナ、イタリア・ミラノ、ヴェネツィア、ローマ
渡航日程	2024年8月1日 ～ 2024年8月20日（20日間）
研究目的・理由	今回の海外研修では、スペインから始まり、イタリアのミラノからローマへと移動していく予定である。その中でイタリアを中心に滞在したいと考えている。私がルーツを持つ朝鮮半島は「東洋のイタリア」と呼ばれることがある。イタリアと朝鮮半島の分かりやすい共通点は半島国ということだが、国民性や風習など似ていることがあるかどうか、実際に感じてみたい。11月末に本校2号館1階FALにて研究成果展を行う予定だが、そこで自身の朝鮮半島のルーツについてのテーマの作品を発表したいと考えている。今回のイタリアを中心とした南ヨーロッパでの滞在中感じたことを作品に還元し、研究成果展にて発表できたらと思う。また本場の古典的な絵画を鑑賞することで絵画の形式的な側面へのアプローチも深めていきたい。

研究成果発表予定
(展覧会、著書、
論文発表等)

11月末～本学2号館1階FALにて研究成果展を行う。

研究内容

今回の海外研修では、スペインのバルセロナを始めに、イタリアのミラノからローマへと移動していった。

スペインではバルセロナ市内にあるガウディ建築や美術館などを鑑賞した。イタリアではミラノ、ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマの四都市に滞在し、それぞれ市内にある美術館を回り多くの作品を鑑賞した。

今回の海外研修でイタリアを中心に滞在したいと考えた理由は2つある。

1つ目は、私がルーツを持つ朝鮮半島が「東洋のイタリア」と呼ばれることがあると聞いたことがあったからだ。12月に本校2号館1階FALにて研究成果展を行なったが、そこで自身のルーツについてがテーマの作品を発表したいと考えていた。実際に朝鮮半島とイタリア半島に似たものがあるかどうかは感覚的にしか分からなかったが、今回日本からも朝鮮半島からも遠く離れた国に滞在することで、自分のアイデンティティを改めて考え直すことができたと思う。

2つ目は、本物の絵画を観てみたかったからだ。私はエマルジョンという古典技法で使われる下地を用いて油絵作品を制作している。私の作品は、描かれているモチーフの印象で一見軽い油絵作品に見えるかもしれないが、キャンバスや下地にはあえて重厚さを持たせることにこだわっている。今後も下地や技法を用いて制作して行く上で、本場の古典絵画を観ておくことは重要だと思ったからだ。

大学授業における
研究成果の還元

12月に本校2号館1階FALにて研究成果展を行った。
2021年ごろから、私は家族が書いたメモ（買い物メモやto do listなど、日常の中の何気なく書かれたもの）を油絵で描いてきた。また同時に、iPhoneで撮影した家族の写真をモチーフに、家族が引き起こすしょうもない出来事を描いてきた。（実際にしょうもないかどうかは別にして、しょうもないと表現する。）例えば、父親が母親の足に貼られたサロンパスの写真を時々メールで送ってくるということと、メモの四角い形とサロンパスの四角い形を掛け合わせて作品にした。（「plaster」2023年）

ある時、母親が何気なく家系図を書いてくれた。母方の両親、父方の両親の4パターンの家系図である。他の何気ないメモと同様に作品にしたいと思った。この家系図では、母方の方は母親にとっては身内であるため詳しく書かれており、父方の方は母親にとっては言ったら他人であるため抜けている情報が多い。それが私にとっては面白く、1枚の画面に4パターンの家系図を描いた「beautiful name」というタイトルの作品を制作し展示した。

これまで私はただ単に自分にとって身近であるという理由で家族を描いてきたが、その延長で家系図を描いてみると、自分のルーツやアイデンティティに結びつく思いがあった。

今回の成果発表展のタイトルも家系図の絵と同じく「beautiful name」とした。

このタイトルは、「ビューティフル・ネーム」という小説から取っている。それは鷲沢萌の未完の遺作となった小説で、在日コリアンである主人公たちが自分の名前を通して、日本で在日コリアンとして、もしくは日本に暮らす1人の人間として日常を送る中で経験することが描かれている。それは決して特別なこととして描かれておらず、私にとって共感できることが多くあった。

私は在日コリアン4世であるが、今まで自分のアイデンティティを考える機会は多くあったものの、作品のテーマにするにあたっては自分が在日コリアンであることを積極的に採用はしてこなかった。それは、自分が在日コリアンであること以上に、家族が引き起こすしょうもない出来事や自分の日常で見つけたモチーフの方が面白いと感じていたからだ。この小説に出会ったことと、母親が描いた家系図を描いたことが私の中で繋がっていき、「beautiful name」というタイトルをつけてみようと思った。小説で描かれている主人公たちのように、また今まで日本で生きてきたコリアンである私自身のように、私が書いた作品たちも特別なものではなく日常の中の一枚であって欲しいと願う。

<スペイン・バルセロナ>

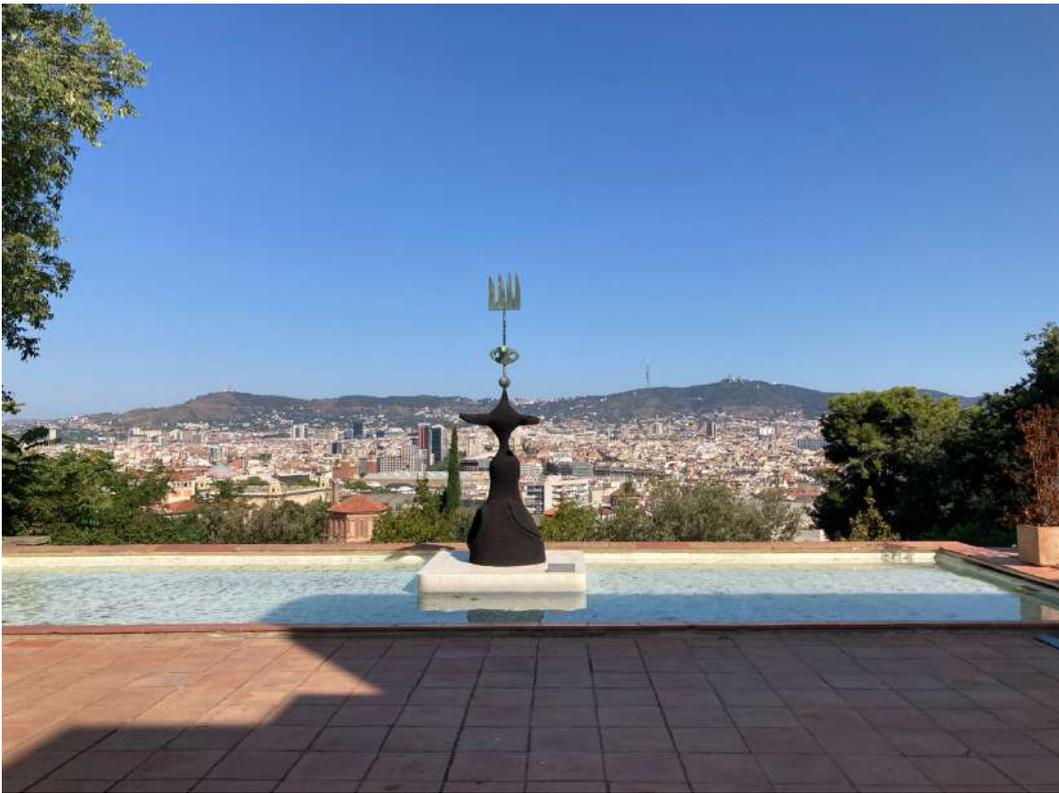


サグラダファミリア



ミロ美術館





ミロ美術館付近



サンタマリアデルマル協会



バルセロナ現代美術館





バスから見た市内



グエル公園に向かう坂



グエル公園



グエル公園から見たサグラダファミリア





ミロのモザイク



カサミラ



カサミラの屋上から見たサグラダファミリア



カサミラ

<ミラノ>



ドゥオーモ



ドゥオーモ内部



アンブロジアーナ図書館

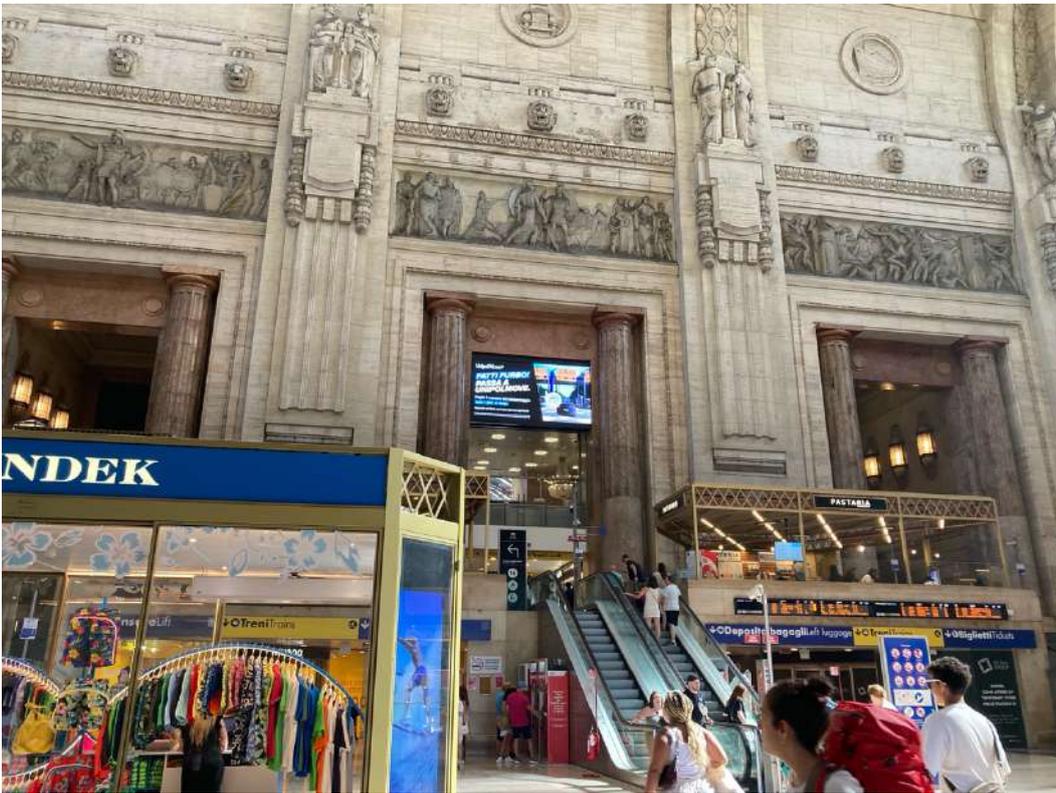


スフォルツェスコ城



ピエタ





ミラノ中央駅

<ヴェネツィア>







サンマルコ寺院



オリヴェッティ社ショールーム



ペギーグッゲンハイムコレクション



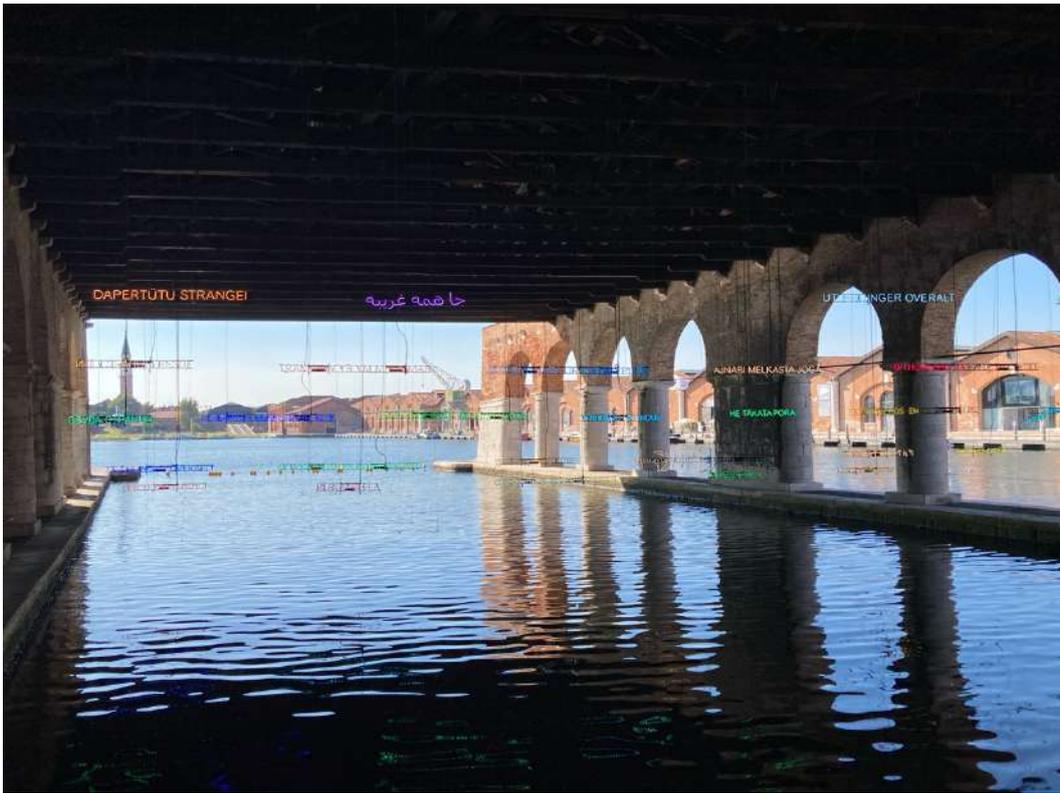
ヴェネツィアビエンナーレ





日本館









ヴェネツィア サンタルチーア駅

<フィレンツェ>



メディチ家礼拝堂





サンタマリアノヴェッラ教会



現代美術館



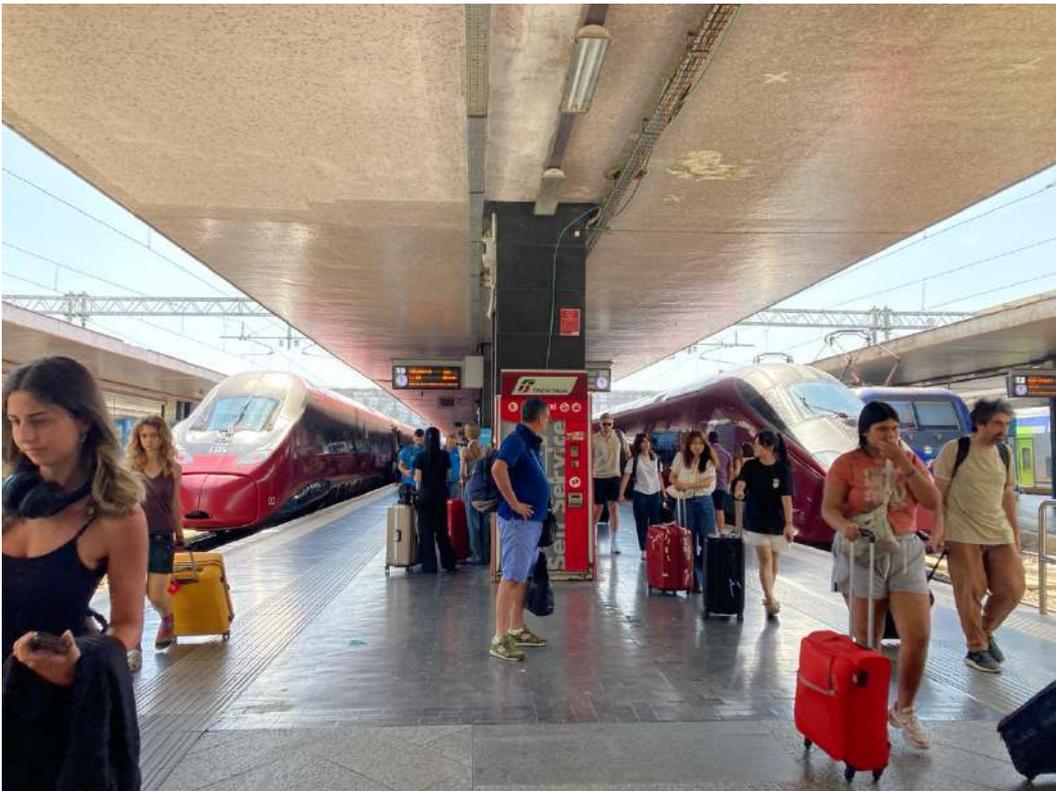
サンマルコ修道院



ウフィツィ美術館



サンタマリアノヴェッラ駅



ローマ テルミニ駅



市内



バチカン美術館













パンテオン



パンテオン内部

